

情勢報告

トンネルオクラの生産安定



12月21～25日にかけて、中芸地区の露地オクラ栽培農家を対象としたトンネルオクラの栽培講習会を開催した。昨年、準備の遅れから立枯病が発生したため、今年は早めにこの対策を伝えようと講習会の時期を早めた。

講習会では立枯病対策とともに、昨年行った振興センターの実証試験結果（肥効調節型肥料を活用した高収量・省力化技術）の紹介、農薬の飛散防止のための防風ネットや障壁作物のスペース確保を指導した。参加者からは「今年は新技術に是非取り組みたい」との意見が多く、トンネルオクラの生産安定・向上に弾みがつきそうである。

北川村くぶつけ集落営農組合柚子部活動反省会と農業機械講習会



防除機の講習

12月25日、柚子部の21年活動反省会を全員が集まり行った。21年は、協業経営に向けての取り組みの一つとして共同防除（12回）を中心に行い、その中で機械料金、労働費、農薬代の精算や作業を行ったうえでの気のついたことなどを話し合った。各農家の生育差、天候、連絡方法、農薬の選択など難しかった部分の反省があったが、生育は台風により一部被害があったが概ね良好であった。最後は次年度計画と春からの防除も共同でやろうとまとめた。

また、反省会の前には農機メーカーによる歩行型のSS防除機やチップーの実演により、将来に向けての勉強も行った。

安芸室戸ブロック青年農業士が地域交流会



意見交換会

1月8日に地域交流会を室戸市芸東地区で開催した。振興センターは栽培技術の違いや天敵導入に温度差がある地区同士の交流は大変必要なことと認識し、積極的に開催に関わったところ15名の参加があった。

今回は、促成ナスの高品質多収農家2戸と天敵活用実践農家1戸の現地視察および意見交換を行った。現地では、参加者から多収穫栽培に対する肥培管理や土着・購入天敵を活用する管理のポイントなどについての質問が多数あり、園主からは丁寧な回答があった。また意見交換会では各地区の情報を紹介しあい共通認識を深めることができた。

女性による女性のためのブルースター部会の研修



有限会社見元園芸にて鉢花生産の講義を受ける。

1月21日は収穫休みで男性陣の理解と協力により、JA土佐あきブルースター部会(10名)の研修会が開催された。振興センター助言の元、女性中心で練った3か所の研修先に9名が訪れた。

日頃とは勝手が違う樟脳の香り漂う牧野植物園の標本室での標本作り・保管の重要性や自生植物の育て方の心得に感心した。(有)見元園芸では、パンジーやクローバーの新品種作出法や命名の方法にブルースターでも新品種の名前の付け方に苦労したことを思い出した。ユリ球根商社の(株)中村農園では、開花が始った試験農場でユリの色と香りに幸せな気分となり、施設の電力を太陽エネルギー等でまかなうことを聞き、環境問題を身近なところから解決していることを認識した。

これらの視察先から力をもらい、また明日から高品質なブルースターを作っていこうと決意を新たにした研修会であった。

室戸・安芸地区農村女性リーダー大阪市場等で研修を実施しました



安芸のナスはどうか？

平成22年1月21日～22日にかけて、農村女性リーダー5名が大阪で研修した。研修先は、中食のロックフィールド、荷受業者3社(中青、京果、東果)、仲卸(森田商店、関西スーパー)を訪れ、関係者と意見交換を行った。この研修を通じて、消費者側に立った農産物生産の大切さや、都市部で農産物に対するニーズ、中食産業の急激な発展状況等現地ならではの情報や状況が見聞できた。

これらの研修内容は、3月3日の「つどい」で発表し、生産地でできることや取り組みについて提案していく。